

## 明日の登別を語り合おう!

～市民フォーラム『まちづくり、まちの自立について』～



約150人参加して開かれた市民フォーラム

2月16日(日)、市民会館で鬼のたまご協議会と市主催の市民フォーラム『まちづくり、まちの自立について』が開かれました。

このフォーラムは、これまでのまちづくりを振り返りながら明日の登別を語り合おうと開かれたもので、市民など約150人が参加。まちづくりの企画・調査などをする(株)インタラクシオン研究所の代表・安田睦子さんを司会に、上野市長や登別商工会議所青年部、登別青年会議所などまちづくりに取り組む市民団体のメンバー6人がパネラーとなり、参加した市民が意見を述べるかたちで、まちの自立策や市町村合併などをテーマに話し合いました。

まちの自立策に向けて『官民協働』を求める意見が多く出される一方で、市町村合併については「十分なまちづくり議論を経てから検討すべき」「もっと時間をかけて議論を」といった早急な市町村合併に対しては、慎重、否定的な意見が多く出されました。

市は、より多くの市民のみなさんにまちづくりや市町村合併について論議を深めていただくため、今後も引き続きこのようなフォーラムを開催する予定です。



パネラーの一人として発言した上野市長

## リサイクルの推進や環境保全に配慮

～一般廃棄物処理基本計画改定～

3月6日(木)、登別市廃棄物減量等推進審議会の村本和夫会長から上野市長に登別市一般廃棄物処理基本計画の改定についての答申書が手渡されました。

この答申は、今年2月に諮問された同計画改定の素案に関するもので、平成15年度から27年度までを計画年度に、ごみの量を可能な限り少なくすることをはじめ、ごみのリサイクルの総合的な推進や環境保全に配慮した適正な処理体系の推進を基本方針とし、ごみ減量化の目標値の設定や資源ごみの対象品目の拡大のほか、ごみの発生・排出抑制に向けた市民・事業者・行政の役割分担の明確化などが盛り込まれています。同審議会は、市民・事業者・行政の役割が明示され、一体的に取り組む基本計画の内容となっているとし、原案に異議がない旨、答申を行いました。

今回の答申を受け、市は『登別市一般廃棄物処理基本計画』を改定し、4月から新たな計画に沿って資源循環型社会の構築に向けて取り組みます。



## お魚にタッチしたよ!

～公民館講座『さなか博士教室』～

3月8日(土)、登別マリパークニクスで市教育委員会主催の公民館講座『さなか博士教室』が開かれました。この教室は登別マリパークニクスで毎年行われている人気行事で、これまでイルカやアシカの生態などを学んできましたが、今年のテーマは魚。

参加した市内の小学3・4年生17人は、同館学芸員の吉中敦史さんからサメと魚の違いや水族館の魚の入手方法などを学んだ後、ヒトデを手に載せて観察したり、大水槽で魚に餌を与える体験をしました。

子どもたちが特に喜んだのは、タッチプールでの魚の観察。目を輝かせながらウニやカブトガニ、エイなどに直接触れていました。

